

熊野川河道掘削の実施状況と河川整備計画の目標について

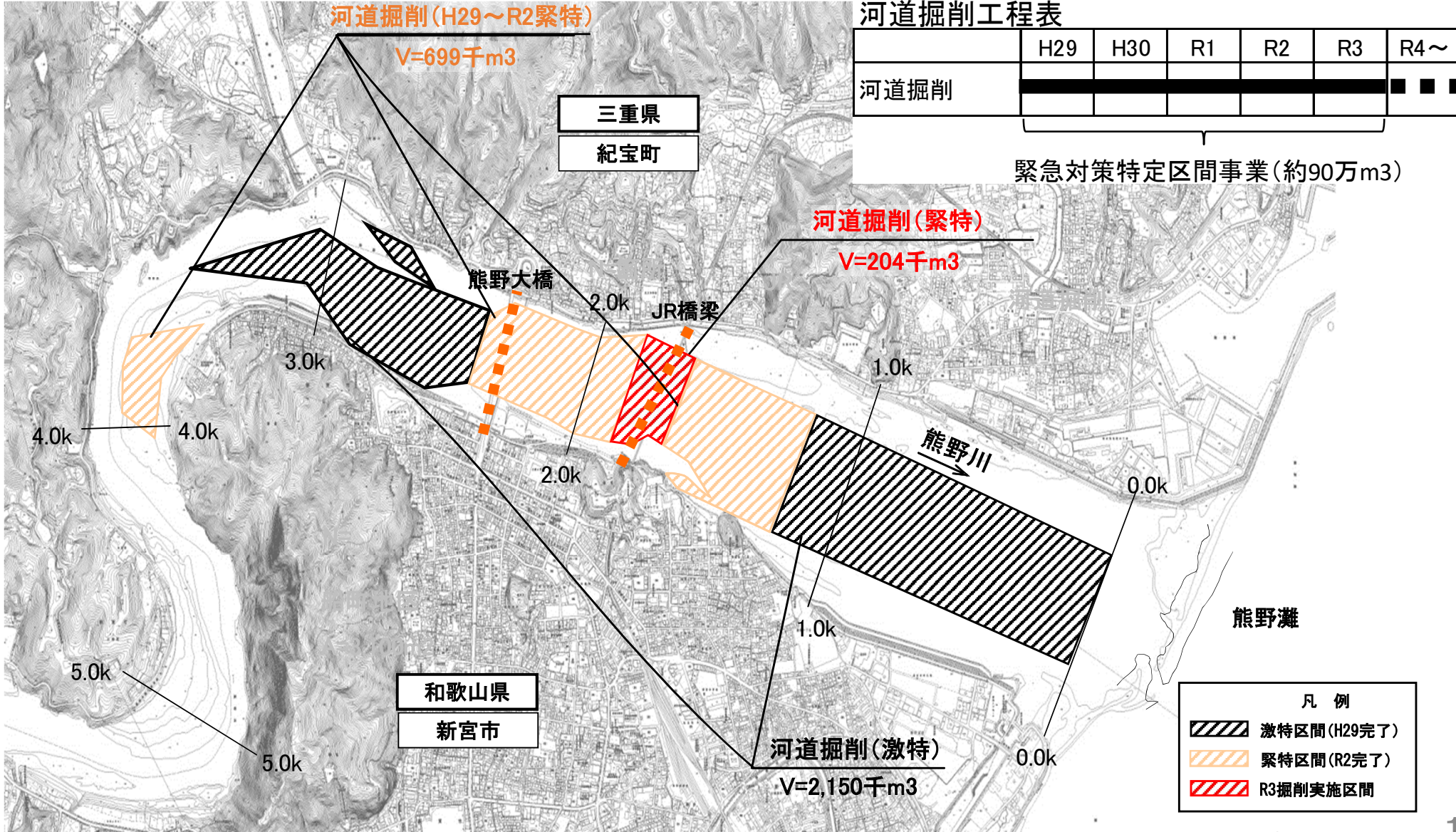
令和3年12月23日

近畿地方整備局

紀南河川国道事務所

熊野川河道掘削実施状況

○緊急対策特定区間事業が令和3年度末に概成し、今後も激甚化する水害リスクに備え、水位低減のための新たな計画に基づき河道掘削を実施予定。
 ○紀伊半島大水害と同規模の洪水に対して本支川とも現況堤防高以下に水位を低減。



河道掘削工程表

| | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4~ |
|------|-----|-----|----|----|----|-----|
| 河道掘削 | | | | | | |

緊急対策特定区間事業 (約90万 m^3)

凡例

- 激特區間 (H29完了)
- 緊特區間 (R2完了)
- R3掘削実施区間

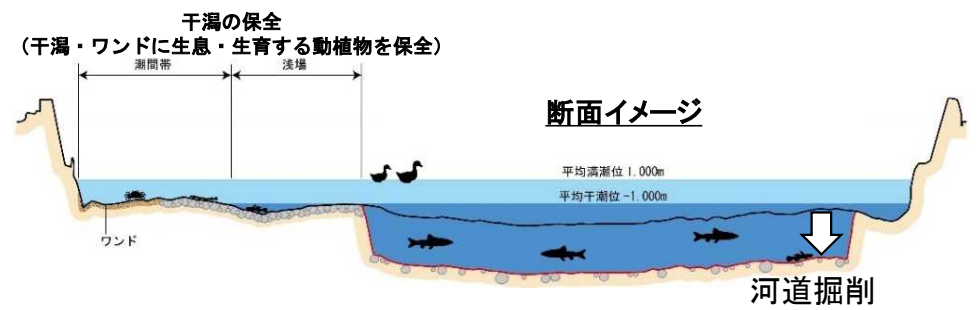
※実績ベースの掘削量

熊野川河川整備計画の目標について

河川整備計画の目標の考え方

- 基準地点相賀において22,000m³/sの流量を安全に流下させる
- 平成23年（2011年）9月洪水と同規模の洪水（ピーク流量：約24,000m³/s）に対しても、水位をできるだけ低下させることに努める
- あらゆる関係者が協働して、人命・資産・社会経済の被害軽減を図る

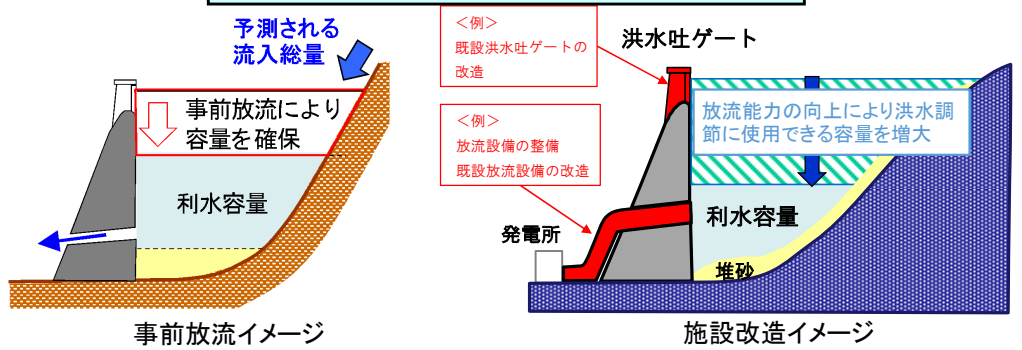
自然環境や歴史・文化に配慮した河道整備



流域治水の推進



洪水調節機能の強化等

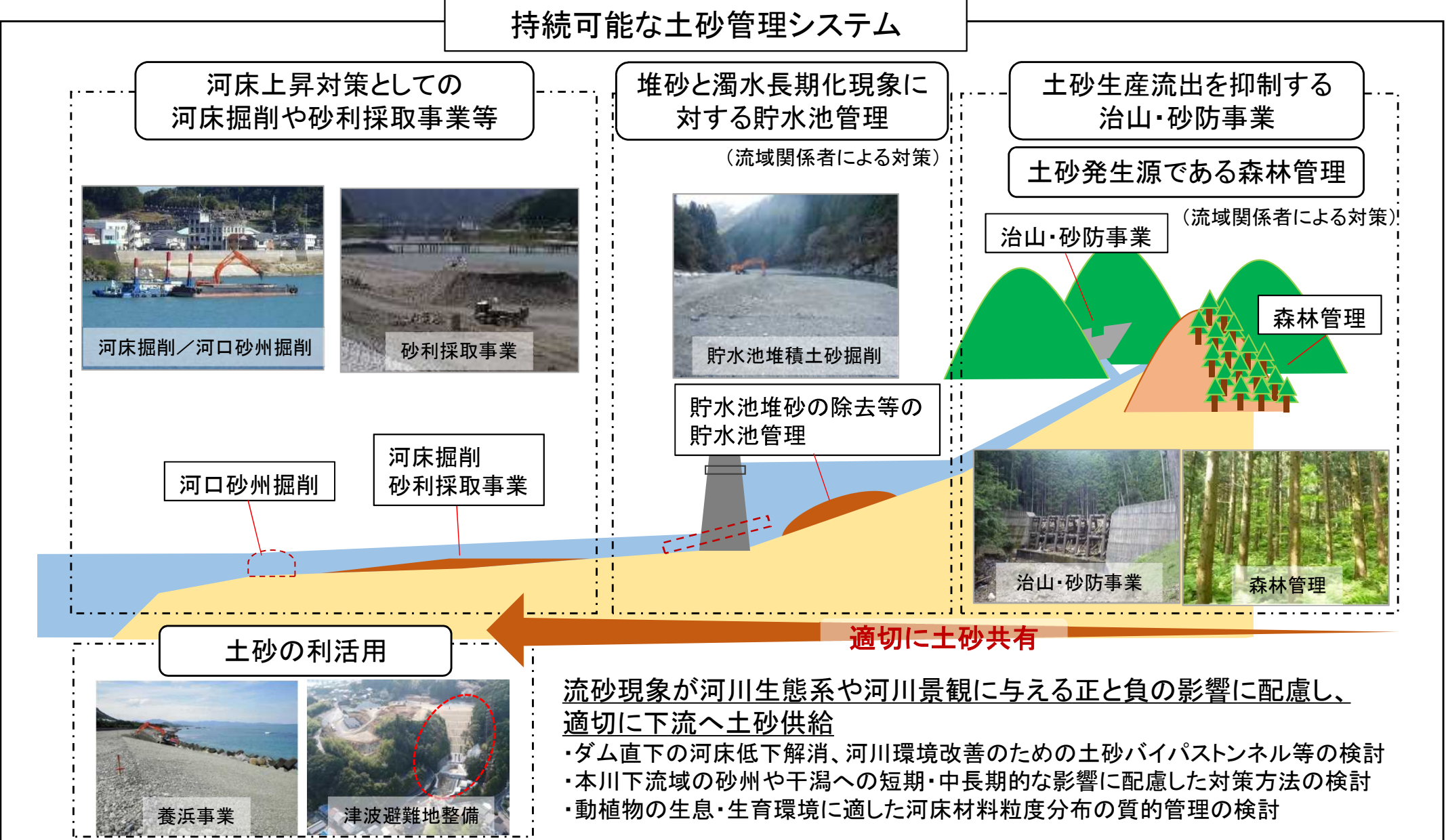


河川整備基本方針において位置付けた洪水調節等※の実現に向けた取り組みを行う。

※河川整備基本方針においては、「気候変動により予測される将来の降雨量の増加等を考慮した結果、そのピーク流量を基準地点相賀において24,000 m³/sとし、このうち洪水調節施設等により1,000 m³/sを調節し、河道への配分流量を23,000 m³/sとする。」と記載。

持続可能な総合的な土砂管理を実現する

○歴史や文化、河川環境を考慮し、持続可能性やコスト縮減を意識した総合土砂管理を流域全体で実現



持続可能な土砂管理システム

河床上昇対策としての河床掘削や砂利採取事業等

堆砂と濁水長期化現象に対する貯水池管理
(流域関係者による対策)

土砂生産流出を抑制する治山・砂防事業

土砂発生源である森林管理
(流域関係者による対策)

河口砂州掘削

河床掘削
砂利採取事業

貯水池堆砂の除去等の貯水池管理

治山・砂防事業

森林管理

治山・砂防事業

森林管理

土砂の利活用

適切に土砂共有

養浜事業

津波避難地整備

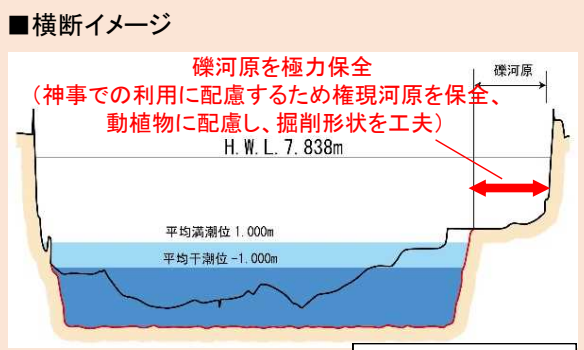
流砂現象が河川生態系や河川景観に与える正と負の影響に配慮し、適切に下流へ土砂供給

- ・ダム直下の河床低下解消、河川環境改善のための土砂バイパストンネル等の検討
- ・本川下流域の砂州や干潟への短期・中長期的な影響に配慮した対策方法の検討
- ・動植物の生息・生育環境に適した河床材料粒度分布の質的管理の検討

世界遺産の川にふさわしい河川環境等を保全、継承する

- 多様な動植物が生息・生育・繁殖する歴史ある自然豊かな河川環境の保全と文化の継承
- 河川風景や舟運などに必要な流量確保

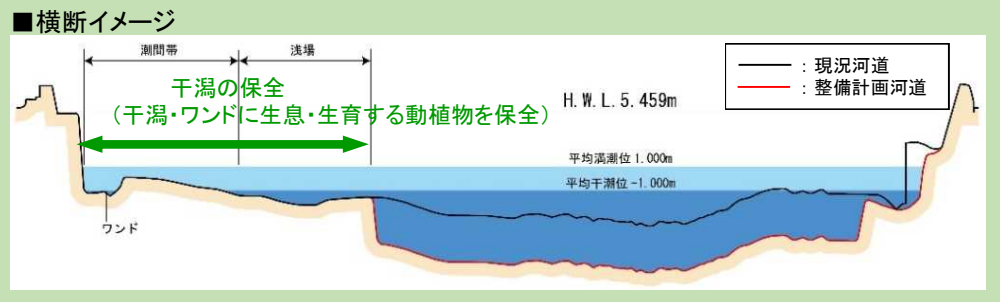
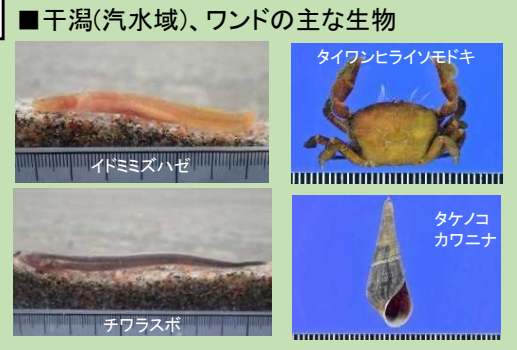
礫河原の保全



■礫河原の主な生物



河口干潟・ワンドの保全



環境モニタリング

河道掘削に伴う生態系への影響を調査するため、学識経験者の助言のもと、環境モニタリング方法を検討し、モニタリング調査を実施するとともに、重要種であるタコノアシの移植等による影響の回避に努める。



環境モニタリングにおける生物採捕のイメージ



歴史的な文化の継承



河川風景、舟運に必要な流量確保の連携

発電減水区間における瀬切れについて、よりよい河川環境の構築に向けて、関係機関等と連携して検討を行っている。

